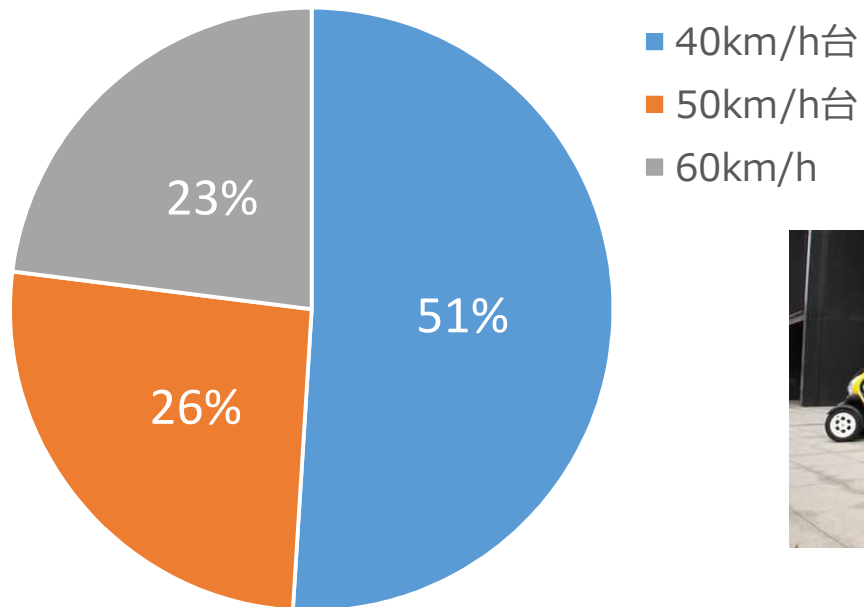


社会実証における走行速度・走行路の分析

江東区豊洲における走行実態（業務利用）

■ GPS（距離と時間）から計算した車速の状況

最大速度（2016年12月～2017年1月）

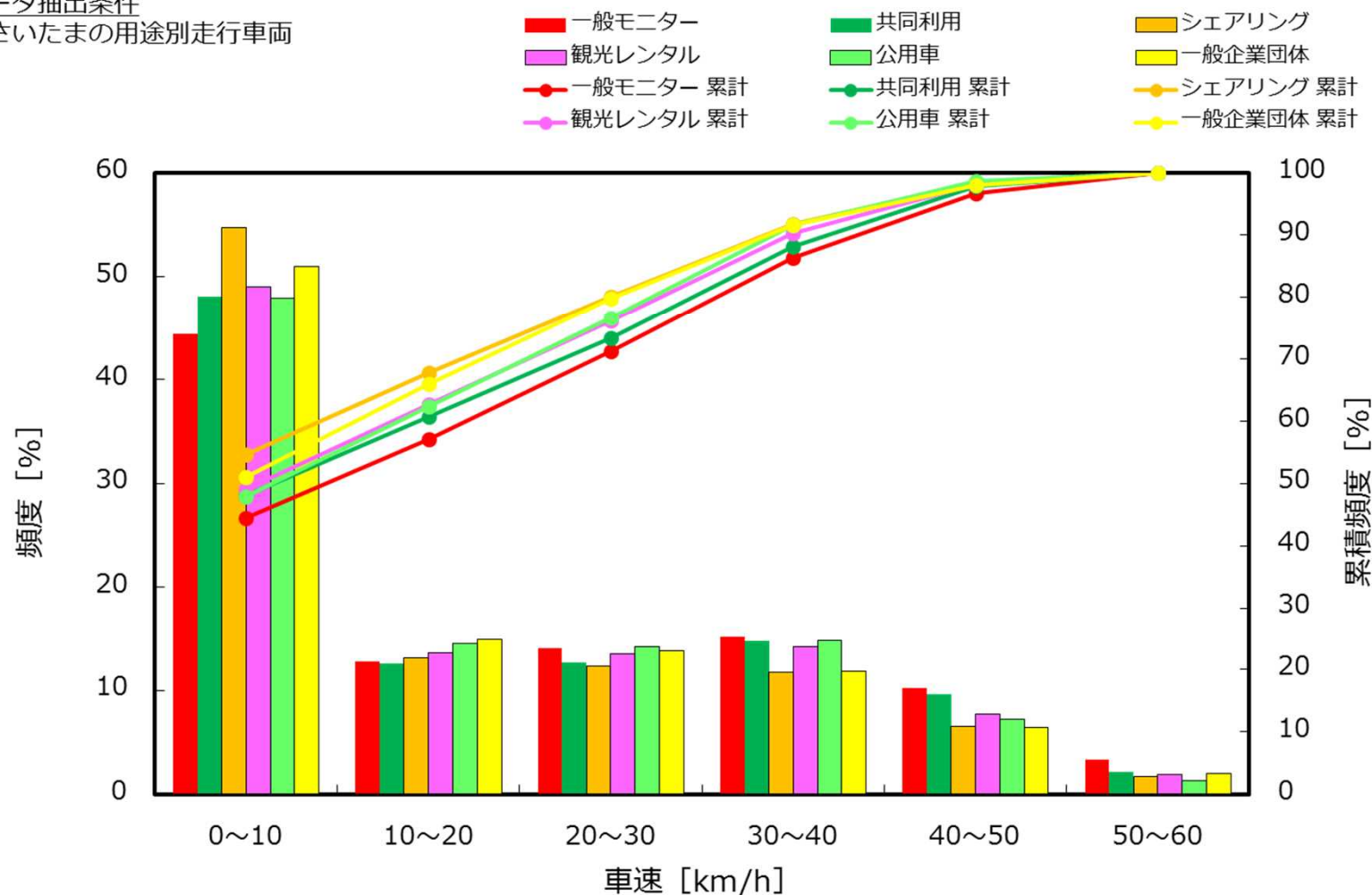


さいたま市における走行実態

- 渋滞の多い都市部では、10km/h以下の走行割合が多い。
50～60km/hまで利用実績有り。

データ抽出条件

・さいたま市の用途別走行車両



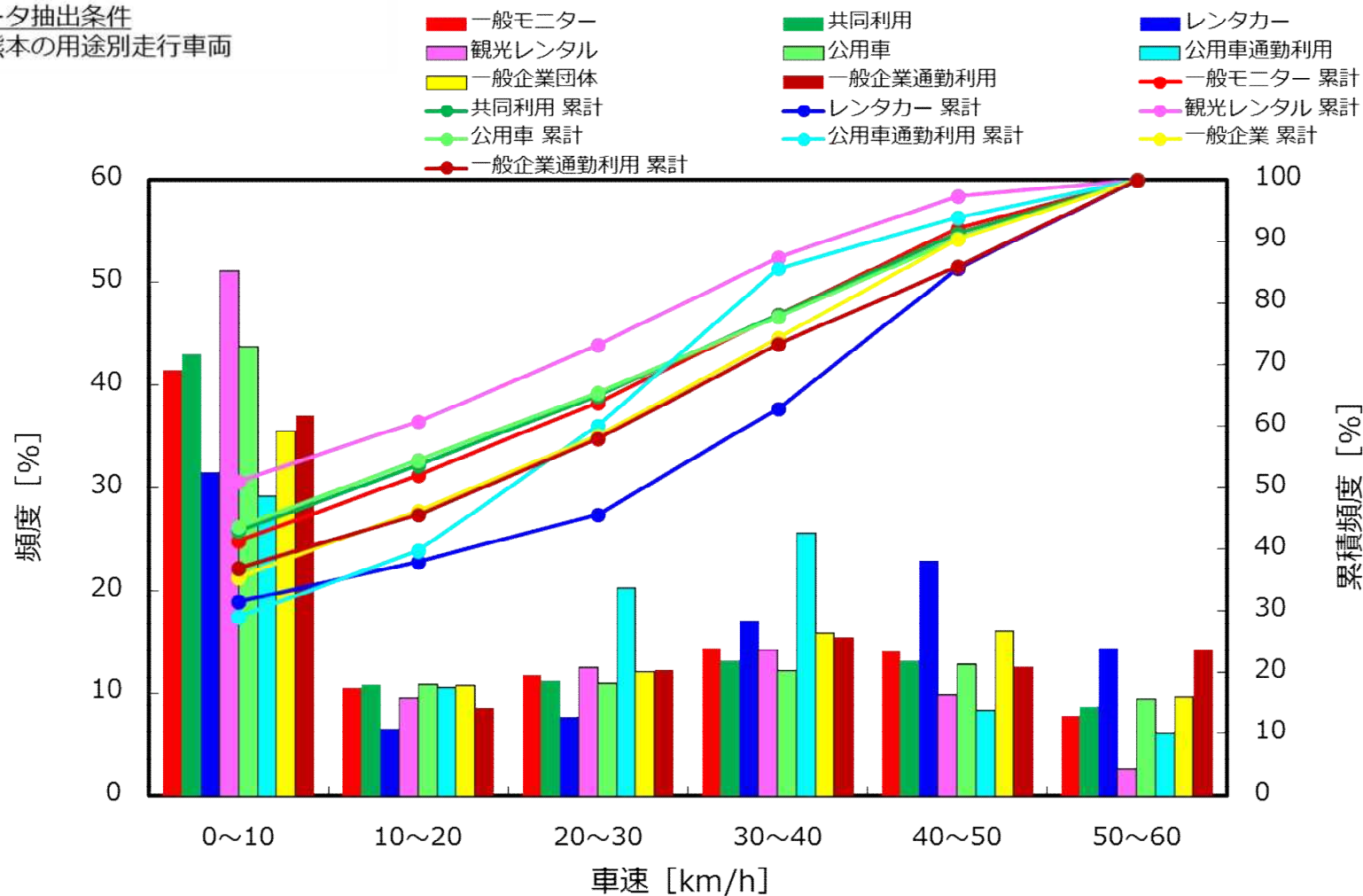
さいたま市の用途別走行車両の車速頻度分布

熊本県における走行実態

- 用途により車速が大きく異なる。レンタカーを除く最頻値は30～40km/h。
50～60km/hまで利用実績有り。

データ抽出条件

・ 熊本の用途別走行車両



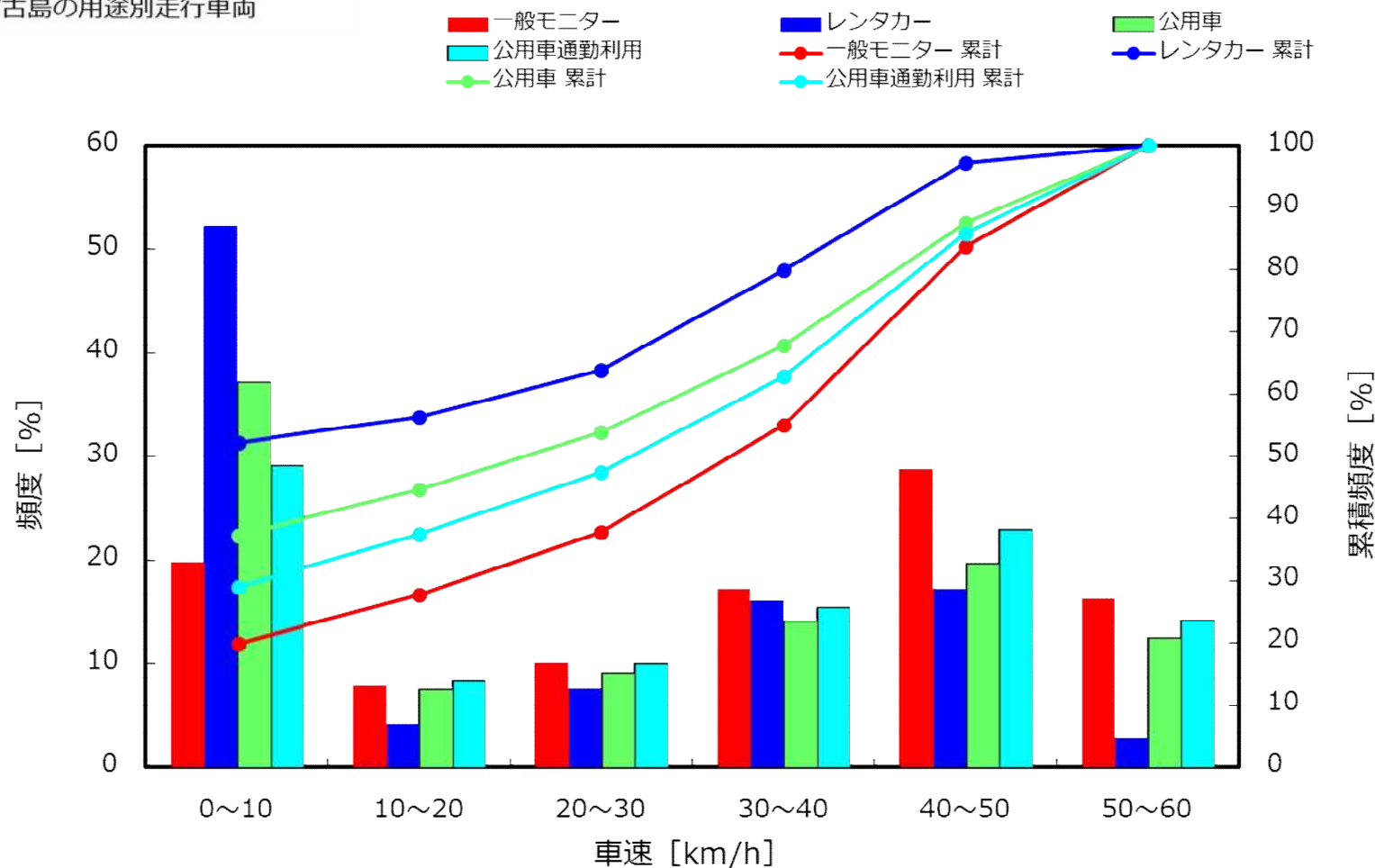
熊本県の用途別走行車両の車速頻度分布

宮古島市における走行実態

- 用途により車速が大きく異なる。最頻値は40～50km/h。
50～60km/hまで利用実績有り。

データ抽出条件

・ 宮古島の用途別走行車両



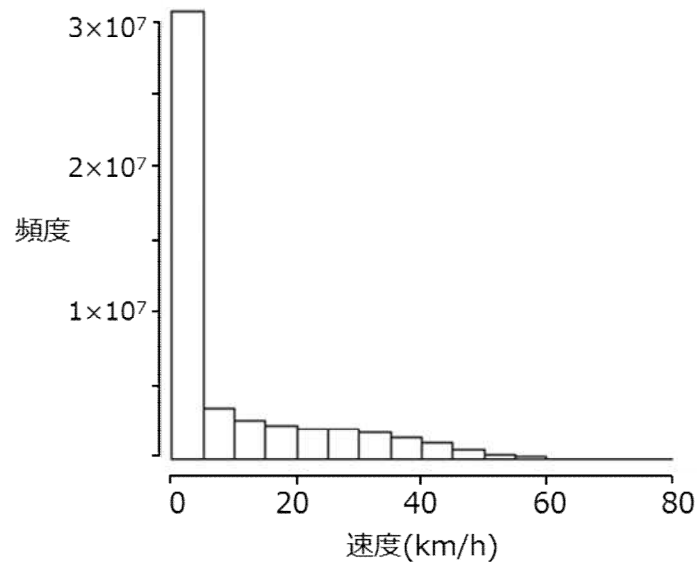
宮古島市の用途別走行車両の車速頻度分布

都市部での日常利用における速度調査結果

■ 考察

1) 速度分布

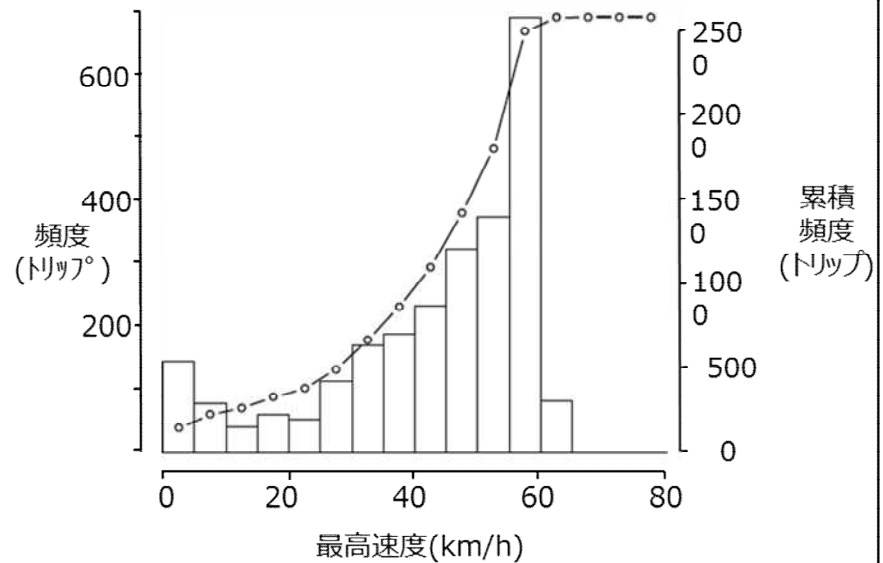
100msec毎に計測した速度の頻度分布



- ・0～5km/hは停車している状態。
- ・5km/h以上は比較的滑らかに、最高速度60km/hまで分布。

2) 最高速度分布

IG-ONからOFFまでを1トリップと規定し、
1トリップ中の最高速度毎のトリップ数を集計



- ・60km/hまで滑らかに分布。
- ・最高速度が60km/hであったトリップ数が最も多い。

【解析対象データ】

運転者：i-ROADを1ヶ月間利用した一般のモニター（都内在住）35名

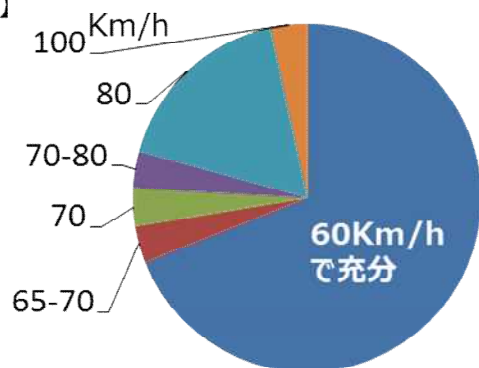
使用車両：i-ROAD 最高速度60km/h

期間：'15.7.4～'16.1.24 延べ走行距離：9421km 2584トリップ

都市部での日常利用における最高速度に関するアンケート結果

【質問】 ・最高速度は60km/hで充分でしたか？その理由は？
・不足だった場合何km/hくらいが必要ですか？その理由は？

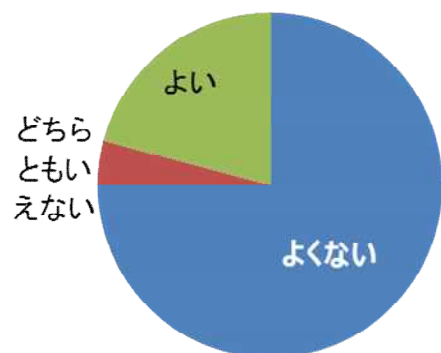
【回答】



- 2/3の人が、60km/hで充分と回答。
・都内一般道の流れに乗れたから充分という意見が多い。
- 1/3の人は、60km/hでは不足と感じた。
・不足と感じたのは、夜（早朝）の幹線道路。
・幹線道路で抜かされないために、中型二輪程度（100km/h）必要という方1名。

【質問】 ・最高速度を40km/hに制限したとしたりいかがですか？
・それでもよいか？またその理由は？
・よくない場合、その理由は？

【回答】



- 3/4の人が、最高速度を40km/hに制限するとよくないと回答。
主な理由
・流れに乗れない
・危険
・他の車両のじゃま
- 1/5の人は、40km/hでも良いと回答。
・裏道を使うとか、渋滞が多いシチュエーションを考えればそれでも良い。
・歩行者側から見ると、細い道を走るなら40km/h制限もあった方が良い。

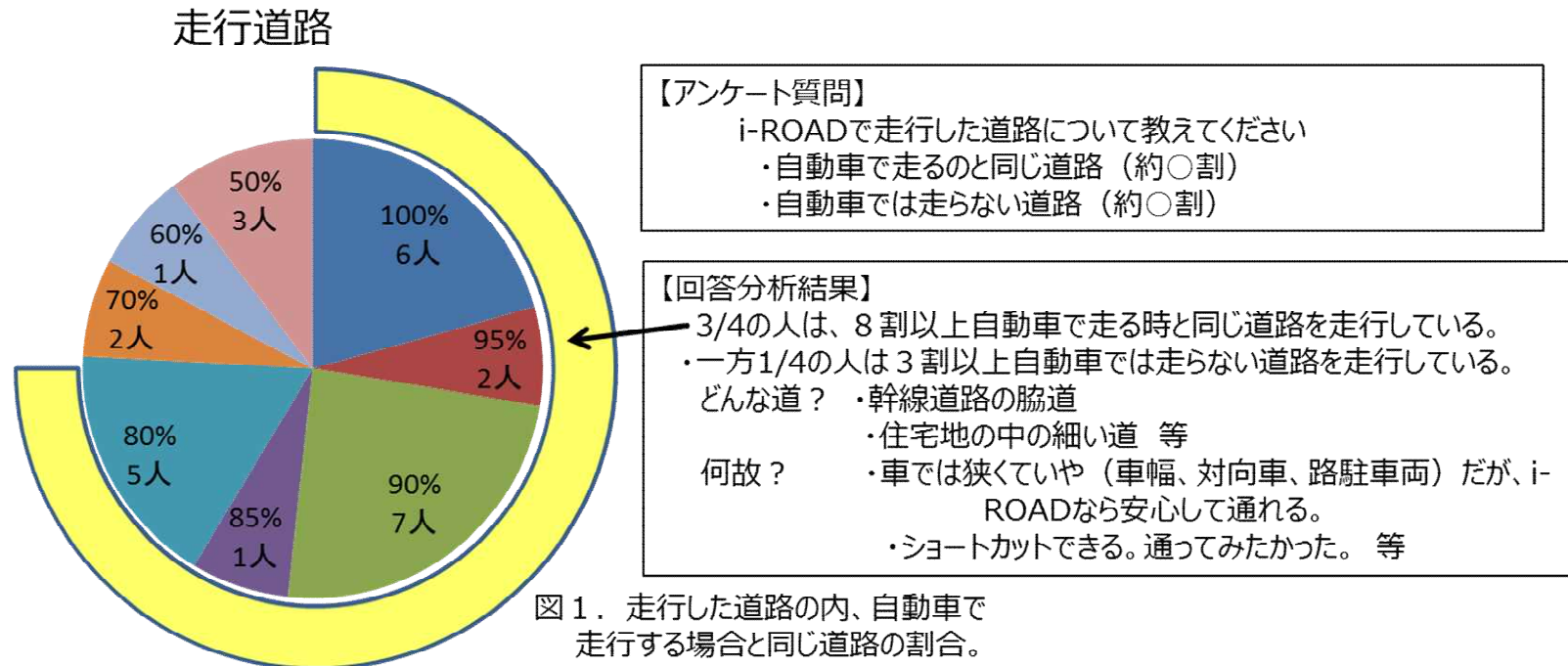
【アンケート対象】

運転者：i-ROADを1ヶ月間利用した一般のモニター（都内在住）35名

使用車両：i-ROAD 最高速度60km/h

期間：'15.7.4～'16.1.24 延べ走行距離：9421km 2584トリップ

都市部での日常利用における走行路のアンケート結果



【自動車では走らない道路とは？】 コメント例

- ・メインの通りと平行している裏通りや、住宅街の抜け道的な道。理由：住宅街の抜け道は、道路にはみ出た電柱などが多く自動車では避けていますがi-ROADでは特に苦もなく通過できるから。（38才男性）
- ・原宿裏の細い道、自宅と幼稚園送迎の際に使った細い道。理由：普通の車では怖くて通れないが、i-ROADなら全く問題なく走れた。（対向車が来ても気持ちが焦らない）（44才女性）
- ・商店街など人通りが多くて通りにくい道、車だと通るのにギリギリの道幅の道。理由：i-ROADなら余裕で通れそうだったから。普段行けない道を試してみたかった。（36才女性）
- ・車では車幅の関係で通れなかったり、普通なら迂回するような細い道。理由：その方がショートカットで早く行けると判断したので（28才男性）

まとめ

■ 速度について

- 混合交通下では、エリア・用途を問わず60km/hの最高速度は必要。

■ 走行路について

- 混合交通下での走行を考慮する必要がある。

【都市部での日常移動の実験例】

- 利用者の3/4は、8割以上は自動車で走る場合と同じ道路を走行している。
- 利用者の1/4は、3割～5割の区間で普段自動車で走らない道路を走行している。
⇒超小型モビリティの特性を活かした利活用